

学校経営方針

京都市立西院小学校

I. 学校教育目標

自ら考え行動し、夢に向かって進む心豊かな子どもの育成 ～一人一人が輝く西院の子～

知識基盤社会にあって、あらゆる分野で情報化やグローバル化が進展する今日では、社会の多様化と急激な社会環境の変化により将来の予測が困難になっている。昨年度は、新型コロナウィルス感染症が世界的に流行し、学校が休業となる誰しもが経験をしたことのない事態が起こった。リモートでの朝会や一人一台のタブレット端末など、ICT化が加速度的に進展している。

こうした時代を生き抜き、子どもたちが、自ら豊かな人生や社会を拓いていくためには、社会の変化や直面する問題に主体的に向き合い関わり合っていく力と同時に、他者と協働しながら問題を解決していくとする能力が重要である。そのため、子どもたち一人一人のよさと可能性を伸ばし、新しい時代に求められる資質・能力を確実に育成することが求められている。

学校教育目標実現に向け、「主体的・対話的で深い学び」となる授業改善に取り組んでいく。また、これまでにも取り組んできた、「自己決定の場を与える」「自己存在感を与える」「共感的な人間関係を育成する」という生徒指導の三機能を全教育活動の基盤とし、児童一人一人の「自己指導能力の育成」を大切にしたい。そして、子ども一人一人が、「教室に居場所がある。」「支えてくれる仲間がいる。」「わかってくれる大人がいる。」「学校は、安心・安全な場所である。」と感じ、あらゆる人間関係の中で大切にされているという実感をもてるような学校にしていきたい。

2. 目指す学校像 子どもが毎日楽しく通える学校

3. 目指す子ども像

- ・自ら進んで学習し、互いに高め合う子（知）
- ・互いに認め合い、自分も友達も大切にする子（徳）
- ・身も心も鍛え、命を大切にする子（体）

4. 今年度の重点 主体的、対話的で深い学びのある授業の構築

5. 目指す子ども像の実現に向けて今年度特に力を入れたい取組

授業においては、「主体的、対話的で深い学び」となるよう、「思考ツール」や「知識構成型ジグソー法」等の手法を用い、ICT（ロイロノートスクール等）を活用した協調学習を推進し、自分のおもいをしっかりと伝え、互いに話し合い、高め合う力を伸ばしていく。教育活動の基盤として、生徒指導の三機能を意識した学級経営を行う。また、音楽教育の充実を図り、感性豊かな心を育んでいきたい。

その中で、以下の点に特に力を入れて取り組んでいく。

- 思考ツールや知識構成型ジグソー法を用いた「主体的、対話的で深い学び」となる協調学習の授業実践
- 「自己決定の場を与える」「自己存在感を与える」「共感的な人間関係を育成する」という生徒指導の三機能を基盤にした教育活動
- 「西院の子 心でつなぐ5つのやくそく」の実践



6. 目指す教職員像 教育者としての責任を自覚し、確かなビジョンと力量を持つ教職員